



# Only One

北総教育事務所 特別支援教育通信

令和4年4月号 No.1

新年度が始まりました。北総教育事務所では、「全ての子どもたちを対象とし、それぞれが抱えている学習上又は生活上の困難の改善・克服に向けた指導・支援の充実」を目指し、「Only One」を発行してまいります。各地区・各学校の特別支援教育の取組への一助となることを願います。

## ◎各学校における特別支援教育 取組チェック

### 特別支援教育推進のための年間計画

校内の全教職員が特別支援教育への理解を深め、主体的に取り組むためには、校内組織の推進体制を整備することが大切です。計画的に進めていくための年間計画の作成は必要不可欠です。

(例) 学校での特別支援教育支援体制

校内委員会（月〇回） メンバー：	校内での特別支援教育の取組
4月（上旬） ○合理的配慮の申し出 ○個別の教育支援計画及び個別の指導計画作成対象児童生徒のピックアップ ○引継ぎ事項の確認（個人ファイルによる情報収集）	○校内組織の編成 特別支援教育コーディネーターの指名等 ○特別支援教育年間計画作成 ○教育課程の編成
4月～5月末までに ○実態把握 ○合理的配慮の提供について検討 ⇒保護者との面談を実施し合意形成（押印） ○個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成 支援方針の検討及び具体化 ・障害特性に応じた学習内容の調整 ・支援の手立てについての共通理解	○特別支援教育全体会 ・支援を要する児童生徒についての共通理解 ・各教科等でのユニバーサルデザイン推進
6月 ○具体的支援の実施 ・交流及び共同学習の際、通常の学級の担任と特別支援学級担任とが支援について共通理解し連携を図る。	○授業観察 ・ユニバーサルデザインを取り入れた分かる授業の取組 ○外部機関との連携 ・必要に応じて参観や相談
7月 ○個別の指導計画短期目標の達成状況の確認 ・児童生徒の変容と課題、支援の手立ての検討	
8月 ○支援の手立てについての見直し ・外部機関等との連携 （医療や福祉などから必要な助言を得る）	○校内研修 ・ケース会議 ・事例検討等 ・専門性向上の研修

このように、年間計画に位置付けておくことで、学校内での特別支援教育について、計画的・組織的に進めることができます。

## ○主体的に活動しやすい環境

<時間編> (派遣時の学校の様子から、効果的な取組をお伝えします。)

新しい学年の生活に慣れ、主体的な学びを深めるためには環境の調整が大切となります。

集中が続かなかったり、興味関心の偏りがあったりして、なかなか集団での学習活動になじめない子どもたちの姿も見受けられます。

そこで、今回は、そんな子どもたちにとっても見通しをもって、主体的に活動しやすくなる工夫についてご紹介します。



上は、A小学校1年生の教室に掲示されていたものです。子どもたちは、この掲示物を見ながら行動を切り替えたり、休み時間の楽しみ方を考えたりしていました。



B小学校(左写真)では、実際の時計と日課表がセットで各階の廊下に掲示されており、現在の時刻と照らし合わせながら見通しをもちやすい工夫がなされていました。掃除の時間に「あと〇分だよ!」とこれを見ながら声を掛け合っている子どもの姿も見られました。

C幼稚園(右写真)では、文字だけでなく、絵カードも添えながら、スケジュールの見通しがもちやすくなる工夫がなされていました。小学校の特別支援学級でも活用できるアイデアですね。

時間の経過が視覚的に感じられる「タイムタイマー」を併用している教室もありました。

時刻を読む時、短針の位置で混乱してしまう子どもには、文字盤を色分けした教具が用意され、効果的に活用している学校もありました。

